

## 「教育だけじゃない、研究もすごい香川薬学部」

入学前教育から始まって、充実した6年間の学部教育、そして仕上げの薬剤師国家試験対策まで、首尾一貫して親身の教育を行っている香川薬学部ですが、しかしそれだけではありません。教育とともに大学のもう一つの使命である研究でも、香川薬学部は素晴らしい成果をあげています。

例えば、富永貴志准教授は「嗅内皮質第3層から海馬への入力は時間関係連合記憶に必須である」という研究で、科学の世界ではトップランクである雑誌 Science に2011年に掲載されました。また、瀬高渉准教授は「分子ジャイロコマの合成と温度に依存した結晶の複屈折変化」で、やはりトップランクの雑誌である Proc. Natl. Acad. Sci. USA に2012年に掲載されました。ほかにも、国際的に一流の科学雑誌に多くの論文を発表している教員が多数います。

香川薬学部では学生も教育の一環として研究活動に参加して成果をあげています。6年制の薬学教育では卒業研究はとても大事です。その論文の代表例を別記の通り紹介します。もちろん、大学院生の論文も多数あります。

このように世界最高水準の研究を行うためには、研究費が必要となります。その研究費の一部は、研究者間の真の競争によって獲得される学外からの研究資金によってまかなわれています。この競争的資金は、文部科学省、(独)日本学術振興会、(独)科学技術振興機構など、行政機関等から、研究内容の素晴らしさや必要性の審査を受けて獲得されるものです。また、文部科学省や総務省からは教育研究助成金も受託しています。

受験生のみなさん。香川薬学部で親身に優れた教育を受けるとともに、高いレベルの研究にも参加してみませんか？

徳島文理大学・香川薬学部

## 別記:学部生・大学院生たちが参加した研究のうち、 最近の代表的な例をご紹介します。

### **学部4年生:**

Neurobiol. Learn. Mem. という神経科学の雑誌に「ナメクジ嗅覚中枢の機能的偏側性」(2010年)を発表しました。J. Exp. Biol. という神経生物学の雑誌に「ナメクジ触角再生時の神経投射再形成」(2010年)を発表しました。また、Cryst. Growth Des. という結晶学の雑誌に「溶媒分子を取り込むことにより結晶内分子配列を変化させる結晶性化合物の開発」を発表しました(2012年)。

### **学部5年生:**

J. Neurosci. という神経科学の雑誌に「インスリンによる長期記憶の強化」(印刷中)を発表しました。

### **学部6年生:**

Cryst. Growth Des. という結晶学の雑誌に「結晶多形・疑似結晶多形におけるフッ素置換基の効果」(2012年)を発表しました。Neurosci. Lett. という神経科学の雑誌に「アルツハイマー病モデルマウスは、まばたき反射学習が障害されている」(2012年)を発表しました。Brain Res. という神経科学の雑誌に「アルツハイマー病モデルマウスは、水探索試験能力が障害されている」(2012年)を発表しました。また、Arch Biochem Biophys. という生化学の雑誌に「心虚血状態におけるプロテアソームによるチトクローム P450 の蓄積」(2012年)を発表しました。

### **修士課程の大学院生:**

Anal. Bioanal. Chem. という分析化学の雑誌に「海綿から新規臭素系化合物の検出と定量」(2012年)を発表しました。Bioorg. Med. Chem. Lett. という有機化学の雑誌に「ヨウ素による 8oxoG 酸化反応の解析研究」(2010年)や「フラビン誘導体の光反応生成物とそれらのグアニン光酸化への影響を解析した研究」(2009年)を発表しました。また、医薬品情報学という雑誌に「保険薬局において副作用を疑う症例に対応する際の課題」(2012年)を発表しました。

### **博士課程の大学院生:**

Molecules という有機化学の雑誌に「グアニン酸化損傷:グアニン塩基対の安定化エネルギーを見積もった研究」(2012年)を発表しました。

これらはほんの少しの代表的な例でしかありません。

香川薬学部では、学部生ならびに大学院生が、教育の一環として多くの研究にも意欲的に取り組んでいます。